

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年2月17日】第73号



## サトウキビがやってきた

2月9日(火)、東京農業大学国際農業開発学科志和地弘信教授が、食育ミニ講義のために来校。1年生に、サトウキビについて教えてくださいました。サトウキビは熱帯に位置するパプアニューギニアが原産地だそうです。寒さにあたって甘さが増すとか。鹿児島県種子島の東京農大卒業生(校友)の会社から寄贈された糖度20%にもなるサトウキビの茎を、担任の先生が代表してお味見。「甘い」の声に、子どもたちからは「先生だけ、ずるーい」。ただし、サトウキビの茎は筋のように固いので、汁を吸るように味わうということも、志和地先生に教えていただきました。子どもたちは、サトウキビの茎と同じく校友から寄贈された「純黒糖」をお土産に帰宅しました。ご家族とともに、サトウキビの甘さを楽しんだことでしょう。

農大稲花小では、卒業までに子どもたちを一度、沖縄県宮古島にある東京農業大学宮古亜熱帯農場を訪問させる計画を立てています。サトウキビ畑に渡る風を、子どもたちにも感じてもらう日が来ることを願っています。



## 畑の準備もはじまる

本校の子どもたちは稲花タイムの畑の実習で、トマト、ナス、ダイコン、カブなどを栽培し、観察し、収穫し、そして味わっています。今週は新年度に向けて、畑の準備について打ち合わせも行われました。新年度は3学年が揃い児童数も増えるので、畑の面積を増やすこととしたほか、モンシロチョウを呼びよせるためのキャベツや見本のためのジャガイモを少し育ててもらいたいと思いました。校内のベランダにプランターをおいての栽培を、生活科で行う予定もあります。本校の教育後援会にもお世話になる芋掘り用のサツマイモの苗数を決めたり、新たにラッカセイの

栽培を提案したりと、畑の準備は楽しいものです。しかしそれも、技術指導をしてくださる「畑の先生」がおられるからできること。「畑の先生」に学び、子どもたちと畑を楽しむ春は、もう間もなくです。

### いつもと違う道

2月12日(金)、東京農業大学世田谷キャンパスは休業日で、子どもたちの登下校にキャンパス内を通ることができませんでした。そのため、正門前に集まってきた子どもたちは、2列に並び、教頭の引率でキャンパス脇の道を歩いて登校しました。農大稲花小の子どもたちは好奇心いっぱい。正門で交通整理をする校長は、何故、今朝は通れないの、誰が今日を休みに決めたの、次はいつ？ 中で何をやっているの(何もしていません！)？と質問攻めにあいました。また、密を避けるためもあり整列する機会が少なかったせいか、最初は学年混合で2列に並ぶのにも戸惑った様子が見られました。しかし、すぐに慣れたようです。バスが到着するたびにかわいい行列ができ、安全に登校することができました。



### 消毒液を寄贈していただきました

農大稲花小には、東京農業大学の校友他ご関係者から、消毒用アルコールのご寄贈などをいただけてきました。そしてこの度、校友が勤務されるゴージョージャパン株式会社様から、たくさんのハンドソープ(液体)とそれを利用するためのオートディスペンサー20台を寄贈していただきました。早速、校内の各階の手洗い場などに設置し、子どもたちの利用に供しました。

新型コロナウイルス感染防止に手指消毒、とくに、手洗いは重要です。また、子どものやわらかい肌が荒れてしまわないよう、手を洗ったら、清潔なタオルでやさしく水気を取って、手を守る習慣をつけたいものです。

ゴージョージャパン株式会社 : <https://www.gojo.com/ja-JP/About-GOJO>

## 桃の花

本校のお雛様の横に、今週は桃の花が飾られています。観察眼のある農大稲花小の子どもたちですが、「桜じゃない?」「梅だと思います」と、正解に行きつくにはちょっと苦労していたようです。とはいえ、やさしい桃の花が、お雛様の姿とともにしっかり子どもの心に残ることでしょう。



## 炭と墨

大人気の「鬼滅の刃」。主人公は炭を焼いて売っている少年なのですが、子どもたちに「炭って知っている?」と聞いても、はかばかしい返事が返ってきません。

職員室の窓辺にはずっと、丑年に因んで「赤ベコ」と「水牛の角」を飾っていましたが、2月16日(火)からは、炭を飾ることにしました。また、子どもたちが今、書写の時間に筆を使って水書きで練習をしていることから、墨と硯も飾りました。炭は木や竹から、墨は煤を膠で固めたものですから、同音異字、全く異なるものですが、真黒なところ、それから炭素を含んでいるところは共通しています。



しばらくは、炭と墨で子どもたちの頭を刺激しようと目論んでいます。〇

校長 夏秋 啓子